

新潟大学 倫理審査委員会 オプトアウト書式

① 研究課題名	髄芽腫における細胞骨格分子の機能解明を目指した後方視的研究
② 対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者	対象者：2001 年 4 月から 2026 年 1 月までの期間に、新潟大学医歯学総合病院脳神経外科において脳腫瘍摘出術を受け、病理診断により髄芽腫または膠芽腫を含む神経膠腫と診断された患者さんを対象とします。このうち、過去に承認された下記研究課題において、手術検体の保存および研究利用について書面による同意が得られた患者さんを含みます。研究対象者が未成年の場合は、ご本人またはご家族（保護者）から、お亡くなりになっている場合はご遺族からお申し出いただければ、解析対象から除外します。 過去の研究課題名：脳腫瘍手術摘出組織の遺伝子病理学的検索の研究（G2022-0012）
③ 概要	髄芽腫は主として小児に発生する悪性脳腫瘍であり、再発・進展例では十分な治療効果が得られない場合があります。本研究では、髄芽腫を中心とする脳腫瘍組織を用いて、リン酸化 Tau の発現や細胞内局在を調べ、腫瘍細胞の分裂・増殖との関連を検討します。
④申請番号	2026-0103
⑤研究の目的・意義	保存された髄芽腫および膠芽腫を含む神経膠腫の腫瘍組織を用いて、リン酸化 Tau、Ki-67 等の染色および生化学的解析を行い、リン酸化 Tau と腫瘍細胞の増殖・細胞周期との関連を明らかにすることを目的とします。
⑥研究期間	研究機関の長の実施許可日から 2030 年 03 月 31 日まで
⑦情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）	電子カルテに保存された診療情報ならびに病理診断後に保存された FFPE 標本および余剰凍結腫瘍組織を利用し、リン酸化 Tau、Ki-67 等の解析を行います。研究成果は学会や学術雑誌等で発表する場合がありますが、個人を特定できる情報は公表しません。
⑧利用または提供する情報の項目	年齢、性別、臨床症状、血液検査結果、画像検査結果、治療内容、病理診断結果および新潟大学に保存されているホルマリン固定パラフィン包埋標本、余剰凍結腫瘍組織を利用します。
⑨利用する者の範囲	新潟大学脳研究所脳神経外科学分野／医歯学総合病院脳神経外科 新潟大学脳研究所病理学分野
⑩試料・情報の管理について責任を有する者	新潟大学脳研究所脳神経外科学分野 教授 大石誠
⑪お問い合わせ先	本研究への同意の拒否や研究に関するご質問等ございましたら、下記までご連絡をお願いします。 所属：新潟大学脳研究所脳神経外科学分野（脳神経疾患先端治療研究部

門)

氏名：岡田正康

Tel：025-227-0653

E-mail：shindainougeka@bri.niigata-u.ac.jp